



Public Art Research Center 9 | PARC 9

現代のパブリックアートとパブリックスペースを多角的に考察していくアートプロジェクト

Public Art Research Center 9 | PARC 9

現代のパブリックアートとパブリックスペースを多角的に考察していくアートプロジェクト

Public Art Research Center [PARC] (パーク) は、公共空間である札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)の広場を舞台に、現代のパブリックアートとパブリックスペースを多角的に考察していくアートプロジェクトです。9回目となるPARC9では、1日約7万人もの人が行き交うチ・カ・ホに身体性を持ち込むことで、身体感覚や視界を広げる場にしたいと考えました。地球の裏側や体内、広大な宇宙のあちらこちらで、目には見えない何かが連鎖的にはるか遠くの何かへと影響を与えあい、世界はダイナミックに駆動しています。知覚できなくともどこかで繋がっているようなこの不確かな関係性から、今回は「いつもどこか動いてる」をテーマとしました。私たちが考える公共とは、遠くの場所、知らない人、未来や過去、自分とは違う環境や立場を想像し、対話し、共に考える時間と空間です。公共空間を、新たな感覚や知見と出会う環境へと変化させていくことをPARCは目指しています。

日時 | 2019年9月21日(土)~29日(日) 12:00~18:00

会場 | チ・カ・ホ 憩いの空間E,W、北3条交差点広場(西)

入場 | 無料

主催 | 札幌駅前通まちづくり株式会社

共同企画 | 一般社団法人PROJECTA

お問合せ | 011-211-4366 (テラス計画) | terracekeikaku@gmail.com

●作品展示

9月21日(土)~29日(日) 12:00~18:00

会場 | 憩いの空間E, W

出展作家 | 小林棕、谷本真理、迎英里子

●アーティストトーク

9月21日(土) 18:30~20:00

会場 | テラス計画(札幌市中央区北2西4 赤れんが テラス5階)



●シンポジウム「これまでとこれからの身体表現」

歴史を検証しながら現代のパフォーマンスアートを広く捉えていく場を設け、これからの身体表現のあり方を探ります。

9月29日(土) 14:00~18:00 終了予定

会場 | 北3条交差点広場(西)

登壇者 | 江口正登、佐々木敦、平倉圭

入場無料 | 先着60名(要予約)

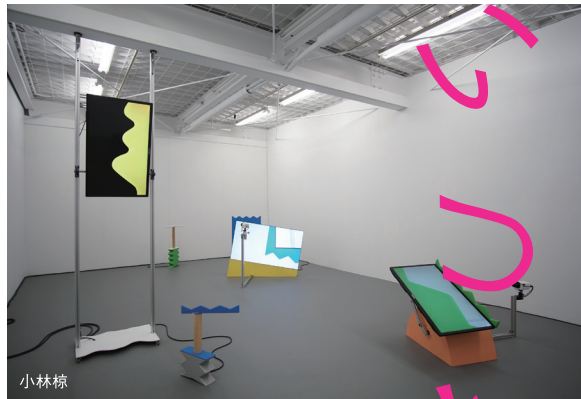
申し込み | webサイトの申し込みフォームか、メールでお申し込みください。



江口正登 | 1978年生。パフォーマンス研究、表象文化論。立教大学現代心理学部映像身体学科助教。主な論考に「大森靖子、みんなのうたはだれのうた?」(『ユレイカ』2017年4月号)、「ジョン・ジェスラン『ファイアフォール』のアクシデント」(『西洋比較演劇研究』15巻1号)など。ほかに、「パフォーマンスの場はどこにあるのか」(森山直人、武藤大祐、田中均との共同討議、『表象』10号)、『美術手帖』2018年8月号の特集「ポスト・パフォーマンス」の一部を監修など。

佐々木敦 | 批評家。HEADZ主宰。芸術文化の諸分野を貫通する批評活動を行なっている。最新刊「この映画を視ているのは誰か?」「私は小説である」『アートトロジー』など著書多数。

平倉圭 | 1977年生。芸術学。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士(学際情報学)。横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院Y-GSC准教授。芸術制作における物体化された思考の働きを研究している。最近はダンス研究を少しずつ。作品制作も時々。著書に『ゴダールの方法』(インスクリプト、2010年、第二回表象文化論学会賞受賞)、『アメリカン・アヴァンギャルド・ムーヴィー』(共著、森話社、2016年)ほか。作品に『ピカソ他を分解する(部分的に遮蔽された)』(レクチャー・パフォーマンス、2015年)ほか。



小林棕



谷本真理



迎英里子

いつもどこか動いてる